

## 主役は俺だー2023年秋⑦2部編

- 浅川夏暉（あさかわ・なつき） 東京農業大 WR／FS 1年
- 千葉悠太（ちば・ゆうた） 北海道科学大 OL／DL 4年
- 芝辻俊希（しばつじ・としき） 札幌学院大 WR／DB 3年

今年は3校のリーグ戦になった2部。参加チームの数は少ないが、アメフトにかける情熱は1部に負けない。各チームの注目選手を紹介する。

昨季15年ぶりの1部リーグに臨んだ東京農業大だが、新型コロナウイルスによる棄権もあり無念の最下位。入れ替え戦にも敗れて2部に逆戻りした。最短での1部復帰を目指すファイティング・ラディッシュの期待のルーキーがWR浅川夏暉（1年、東京・安田学園高）だ。高校では名門バスケットボール部で点取り屋のSGを務め、脚力とボール扱いは自信を持つ。「新入生勧誘イベントのハリー・ポッターの劇がおもしろかった」とアメフト部に興味を持ち、練習の雰囲気にもひかれて入部した。

初陣となった6月の北星学園大とのオープン戦。前半の最終プレーでQB金井康晴（4年）のパスをエンドゾーン左隅で鮮やかにキャッチし、10ヤードの先制TDを決めた。苦手という背面からのパスだったが「すぽっと手の中に入った。びっくりした」と本人も驚きのビッグプレーだった。



「ボールを捕るのが楽しく、カッコイイ」と希望したWR。「バスケットよりもボールが小さいので、すぽっと手に入る」と、アメフトとの相性の良さもアピールする。迎える秋季リーグ。新人の自分に投げてくれる先輩QBの期待にこたえたいとの思いも募る。「8月のXリーグ・オービックのクリニックでDBとの競り合い方も勉強した。金井さんが投げてくれたら、絶対に捕る」と宣言した。

北海道科学大のOL／DL千葉悠太（4年、岩見沢西高）の自慢は171センチ、117キロの重戦車ボディーだ。高校では野球部だったが、「新しいスポーツを」と大学でアメフト部に。恵まれた体を見込まれて攻守兼任のラインメンを任された。「DLでは自分のラッシュでQBサックを。

OLの時はRBのために道を空けるのにやりがいがある」と最前線の激突に男を磨いてきた。

大学入学時には98キロだった体重は、練習の成果もあって年々増量。今春は125キロまで増えた。強力な圧力を生かした忘れられないプレーがある。札幌学院大、北海道医療大、札幌大と合同チームで対戦した昨年の室蘭工業大戦で、先輩DLと2人で室蘭工業大自慢のダイブをがっちりと止めた。「相手OLとの力勝負に勝った」と胸を張った。そして「今年もQBサックをどんどん決めたい」と意気込む。

新入生7人を加えて選手が15人になり、2年ぶりに単独チームで臨む今年の道学生選手権。「ビラ配りやSNSなどで懸命に勧誘した。やっぱり自分のチームでプレーするのは楽しい」と喜ぶ。主将も2年目。「まず勝ちたい。初戦の東京農業大戦で流れに乗りたい」と目標を掲げ、「動きをよくするために少し減量もしている」と勝利への秘策も披露した。

過去に1部で4回の優勝を誇る札幌学院大だが、部員不足で2021年にリーグ戦棄権で2部に降格し、昨年も合同チームでの試合に甘んじた。部員16人で、3年ぶりにリーグ戦に復帰する今季、復活の鍵を握るのがエースWR芝辻俊希（3年、神奈川・星槎国際高）だ。「初めて単独チームで試合ができる。まだTDを取ったことがないので、ぜひ取りたい」と決意する。

高校ではバスケットボール部。バスケットを楽しんだアメフト部の新歓イベントで、部の雰囲気の良いことを知り入部した。「ボールを捕るのが楽しい」とWRを志望した。1年生の時、社会人との合同チームで25ヤードをキャッチして第1ダウンを更新した。昨年春のオープン戦でも北星学園大と合同チームで2試合を行い、「北星大のQB中手さんのパスをキャッチしてダウンを更新できた」と捕球を磨いてきた。

そして迎える秋季リーグ。「単独チームで勝ったことのない4年生に勝利をプレゼントしたい」と目標を掲げる。バスケットで鍛えたキャッチ力と自慢の脚力を武器に、「第4ダウンのギャンブルプレーで自分に任せてもらえるようなプレーをしたい。攻守兼任で出ずっぱりになるが、スタミナには自信がある。最後まで頑張りたい」と力を込めた。

